

立科町ってどんな町？②

～立科町をひもところ～

長野大学企業情報学部教授 前川道博先生

実施日：令和3年10月26日（火）



今回は、「立科町ってどんなまち？」をテーマに2本立てで行った。前半は、タブレットを使って“蓼科学アーカイブ”を検索し、昨年度の蓼科学で先輩たちがどのようなことを行ったかを調べた。立科町の気になるスポットに出かけたときに、生徒が実際に撮ったり書いたりした写真やコメントを見て、現地で見たり聞いたりすることの大切さを学んだ。また、蓼科高校の校長室にある、保科五無斎先生が収集した鉱物標本をデジタルアーカイブ化して、ネット上で誰でも見られる状態にしたことを知り、今後の学習の可能性を感じた。後半は、地域おこし協力隊から芳賀宏さん、吟遊詩人の羅針さんをお招きし、立科町にやってきた経緯や、現在どのような活動をしているかをお聞きした。羅針さんにはギターで弾き語りもしていただき、いろいろな立場の方の貴重なお話を聞くことができた。立科町を学びのフィールドとして探求的な活動をしていく上で、とても参考になった回だった。

【生徒の授業日誌より】

・蓼科学での活動を「蓼科学アーカイブ」で外部の人、地域の人などに知ってもらえるようネットを活用していることを知って驚いた。しかも蓼科高校は『スウィングガールズ』という映画のモデルになっているのを知った。

・蓼科高校の先輩方が作ったサイトを見てとてもよくできていたので、自分がそれ以上のクオリティで作れるか心配になりましたが、がんばりたいと思います。

・蓼科学アーカイブを初めて見たけど、先輩たちの投稿が思っていた以上にしっかりとした記事でびっくりした。立科は米が有名なことを全然知らなかったし、立科をより多くの人に知ってもらうための活動をしていることも初めて知れたから良かった。何を調べるかしっかり考えて進めていきたい。

・どのようなことを伝えればいいのか、どのように伝えたらちゃんと相手に伝わるのか考えてみようと思った。私は町について意識して見ていたことがないので、見てみたいと思った。

・女神湖の歌を初めて聴いたけど、思っていた以上に良くて、もう一回聴きたいと思いました。もっと立科町について知りたいと思ったし、先輩たちのまとめがよくて凄いいました。